

# 東京鷹桜同窓会報



『古代の丘』(長井市)土偶群像より

## 巻頭の言葉

平吹 利昭



本年6月、41年卒の同窓生で結成されている「四一会」東京支部の総会が那須で開催された。毎年、首都圏を中心としたメンバーが交代で運営しており、本年の総会には、遠くは山形・仙台からも参加者が集った。

毎回の事であるが、卒業後二十数星霜の時をタイムスリップし、頭髪の薄いオジンも皺数の増えたオバンも一瞬にして高校生へと変身していくのであった。今回は、宿泊での総会ということもあり深夜まで語らいが繰り広げられ、日常の呪縛から解き放たれた楽しい一時を過ごすことが出来た。

先日は「東京鷹桜同窓会」の学年幹事に小生も参加させて頂いた。この場でも時と共に先輩後輩との隔壁が無くなり、楽しい語らいの場が幾組も出来、しばし和やかに過ごさせて頂いた。幾星霜を経ようが、同窓会は時の流れを忘れさせ楽しい時を提供してくれる。

人間は、誰しもが帰巢本能を持っていると言う。青春真っ直中の高校は、青春への帰巢でもあり、諸先輩や事務局の方々の努力に拠り当会が長年継続され、発展していることは実に有り難い。母校と「鷹桜同窓会」が今後も益々発展する事を祈念し筆を置く。

(昭和41年卒)

## わが道を行く



## 同窓に思う

小林征二郎  
(前長井高校校長)



東京鷹桜同窓会の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。同窓会運営はもとより、学校の教育活動全般に亘り、皆様からは常に変わらぬ温かいご支援とご協力を賜り、まことに有難うございました。恵まれた教育環境の中で、平素の学校運営が円滑に推進できましたのは皆様の力強いお支えがあったのことに改めて心よりお礼申し上げます。

私は昭和58年より6年間、教諭として母校長井高校に勤務しました。同窓会事務局の私の分担は同窓会の支部結成の推進と名簿作成でした。貴支部の長い歴史と有意義な活動については私自身も伺ってはおりましたが、水野校長先生の「地元にも支部を結成し、力強い同窓会を。」の指示により、具体的な全体計画を作り、可能な地域より支部結成を推進することになりました。大世帯の旧長井町は小出と宮の2支部とし、周辺は合併以前の各地域を支部とする、白鷹町は全体を1支部にするか、それとも東西の2支部にするか等いろいろ検討を重ね、いよいよ事務局提案として役員会において真剣に討議いただいた鷹桜会館二階和室の様子など昨日のことに思い出されます。結成推進の要はそのまとめ役をどなたにお願いするかということでした。何しろ旧制中学・旧制高女を母体とする伝統校であり、それぞれの地域には多士済済、まとめ役はやはり地域の同窓生をリードする重鎮ということになり、有難いことに若輩の私は、多くの大先輩に直接お会いする機会を得ることができた。まず地元は宮支部結成ということで、樋口虎雄氏(昭8卒)にまとめ役をお引き受けいただき、名簿作成、規約の制定、第1回総会の実施、それに本部同窓会発行の同窓会報の全員への配布など短期間の中に推進されました。宮支部に続き、まとめ役の方々を中心とした地域の同窓生のお骨折りにより、長井市の各地域、白鷹・飯豊と次々新支部が誕生し、既存の支部活動

も一段と強化されました。新支部結成に際しては、貴支部をはじめ、赤湯支部(赤光会)、県庁内支部などの、年代を越え、同窓生としての心の絆を深めるための様々な取り組みを参考にさせていただきましたことは言うまでもありません。現在鷹桜同窓会は17の支部を擁する大きな組織となっておりますが、結成の当初何らかの形で係わりを持った一人として、本部・支部の同窓会の益々の発展を願わずにはおれません。

図らずも平成8・9年度の2年間は校長として勤めさせていただきました。教諭としての6年間の経験を通して、母校長井高校の全体像は自分なりに把握していたつもりではありましたが、教員生活の最後となるであろう勤務が母校ということで、校長職を拝命したときの任の重さをその時ほど感じたことはないように思います。大正9年創立の伝統校、校訓「万物我に備わる」を継承し、文武両道を目指す学校、地域の中核校としての存在、1万9千余名の卒業生、当面の課題としての大学進学合格者のアップなど今思えば取り留めもなく、しかも鮮明に一つ一つを意識したのはこの時のように思います。私は長井南1回、31年の卒業になりますが、校舎はもちろん旧制中時代そのまま、入学式・卒業式も移築前の講堂の時ですから、校地の周辺は、まさに校歌にある「早苗ヶ原」の風情を十分留めておりました。校舎正門前の道路の西側には幾本もの桜の大樹があり、桜花爛漫の頃の美しさを時々思い出しております。

校舎正門に入ってすぐの所に松の老樹があります。「建学の松」ですが、これは旧制長中の創設に尽力された横山孫助氏が創立当初にご寄贈されたものです。横山家の庭より、特製の櫓で在校生が交替で運び、移植されたと記録に残されておりますが、推定樹齢2百年の風格は長井高校の長い歴史を物語っているように思います。

平成12年創立80周年を迎える我が母校の限りない発展と貴会の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。(昭和31年卒)

'97 東京鷹桜同窓会 再現  
(丸川会・幹事社)

# 懐かしい顔・かお・カオ



現会長、高橋俊龍氏より前会長高橋正二氏に本部同窓会功労賞授賞 お祝いの花束贈呈

いつまでもお若い菅間先生のまわり  
いつまでも若い教え子達



本年幹事学年。丸川当会副会長をはじめ、S31年卒の本年度幹事の皆さんです。注目！

若い同窓会員達もたくさん。歓談風景



## 鷹桜同窓会会長ご挨拶

渡部 健二



今年の山形は梅雨あけのないまま秋を迎えるという異常気象ですが、東京支部の皆様にはご清栄でお過しのことと拝察申し上げます。

日頃、鷹桜同窓会には格別のご高配を賜っておりますこと心から

御礼申し上げます。

現在同窓会員は一万九千余名を数え、支部は貴支部を始め十七支部を数え、会員各位のお力で順調に発展していること、有難いことと心から感謝申し上げます。

おかげ様で創立以来の校訓である「万物備乎我」の精神を継承する母校長井高校も、現在県下有数の進学校として名を馳せ、又部活動も活発で、置賜一の実力を誇っており、文武両道に亘り、校運いよいよ隆盛の一途をたどっていることは嬉しい限りです。

同窓会の組織拡大と活動の充実に伴い、財政の確立が懸案事項となっていました。が、昨年の総会で「同窓会運営会費制度」の新設について提案したところ皆様のご理解を得て可決いただきました。

多くの会員の方々からご賛同を得て納入いただきました。おかげ様で同窓会も母校の応援団としての役割を果たすことができました。心から御礼申し上げます。平成十二年母校は八十周年の節目の年を迎えます。八月二十一日母校八十周年記念事業実行委員会を設立しました。旧講堂の補強修理を始め、建学の松石積石組設置工事、記念誌の発刊、同窓会名簿の刊行等々が予定されております。この後各常任委員会等で検討をいただきご案内申しあげることになっています。経済が破綻し大変な昨今ですが、何分よろしくおねがいします。

(昭和24年卒)

## ～故郷に遊ぶ～

高橋 邦男

三菱自動車工業株式会社 部長代理



渓流釣りを続けて30年になる。渓流魚の美形体に魅せられ、東北各地で入渓したが、野川水系は、とりわけ魅力ある渓相と言えよう。平野舎子の集落から13km程の山路を登れば、木地山ダム湖に着く。

途中の菅野ダム、第二発電所の回りまでは、数年後に完成予定の長井ダムの取り付け道路工事が相当に進行しており、谷を跨ぐコンクリート橋が圧倒してくれる。合地沢出合いの橋を渡ると、曲りくねった急坂となる。舗装されているものの、道幅も狭く、運転は慎重第一である。

沢から道路が離れる回りから、人手の入った杉林が見えてくる。この回りには、墓石も残っているそうで、先人の居住を偲ばせるところである。吐出峰の稜線が見えてくれば、道路は平坦になり、木地山ダムへと続く。湖畔にはダム湖完成に尽く

された関係者の顕彰碑が建っている。

昭和20～30年代の市町村関係者の氏名が、次々と思ひ浮かべられる。この夏2度野川の渓流に遊んだが、湖畔からの祝瓶山(1417m)の眺望に恵まれなかったのが残念でならない。もし山に美男美女が有るとすれば、朝日岳は美男であり祝瓶山は差し詰め美女であると思っている。

岩魚と遊ぶ渓は、湖畔から上流へ数km、祝瓶山荘上流迄の本支流である。ダム湖から溯上する岩魚と遊ぶ渓流が一致すれば、思わぬ釣果を得る。その魅力に取り付かれ、毎年故郷に遊ぶのである。間もなく訪れる紅葉の季節もまた素晴らしい景観です。深山幽谷、樺、みず榎の原生林も間近にあり、自然の豊かさに感動されることでしょう。長井から車で1時間半で祝瓶山荘に着きます。悪路に充分注意して訪ねてみて下さい。

(昭和29年卒)

## 故郷・新名所・再発見 ～古代の丘～

長井市の草岡地区にある『古代の丘』を御存知でしょうか？

長井の中心から西根方面に車で約15分の西山の山麓、風光明媚な地域の中に『古代の丘資料館』を中心として『長者屋敷遺跡』・『太陽の広場』・『土偶群像』などの施設が点在しています。

今回は、故郷の新名所としてこの『古代の丘』を東京鷹桜同窓会の会員の皆様に御案内をしたいと思えます。また、ここではバンガロー等の施設もありますので御家族全員で楽しめると思えます。



『古代の丘資料館』には長井市内の遺跡から出土した考古資料が収蔵・展示してあります。

常設の展示室に一步入り、うす暗いタイムトンネルを抜けると、竪穴式住居の中に出て一挙に数千年をタイムスリップした気分になる事になります。

展示物は、旧石器時代から縄文時代の資料が中心であり、河井山遺跡群から出土したナイフ型石器は置賜盆地の旧石器時代を調べるうえで大変貴重な資料となっています。



奇妙な顔たち、ユーモラスな体つきをした土偶。土偶は最初から壊れる目的でつくられる場合が多く、完全な形で出土する事は希です。

祈りや祭事に使用されたものであろうと思われまます。実物は粘土を焼いた物で約30cm位の大きさですが、ここでは強化プラスチックを素材に拡大・復元したものが、広場の一角で皆さんをお待ちしております。

古代の空気に触れた気分を青空の下で味わうのも大変おもしろい事だと思えます。



また、施設の中には江戸時代の終わり頃につくられた灌漑用の堤、『中里堤』があり、釣りの名所としても知られる堤は休日には多くの大公望で賑わっております。

『古代の丘』の住所は、長井市草岡2768-1、資料館の電話番号は0238-88-9978、毎週月曜日が休館日、但し12月16日から4月15日の間も休館となります。入館料は無料です。

帰郷の際には皆さんで是非足を伸ばされてはいかがですか？



## ◇事務局からのお知らせ◇

## (1) 活動報告 (平成9年分)

- 10月 案内状送付作業 (モー吉)  
総会担当学年46年卒・サブ学年31年卒  
事務局等約30名にて総会最終打合せ
- 11月 総会 (飯田橋・摩天楼大飯店)  
140名余の出席で大いに盛り上がる  
活動報告 (平成10年分)
- 2月 9年度総会反省会、及び新年会  
役員・学年幹事・事務局等約20名
- 6月 事務局会議 (名簿の補足修正作業等)
- 7月 本部総会 事務局長出席
- 8月 学年幹事会 (モー吉) 43名出席  
本年総会を11月14日(土)に決定

## (2) 平成9年度会計報告 (平成10年3月31日現在)

〈収入〉		〈支出〉	
前年度繰越金	982,332	総会費	850,750
年会費	688,420	事務費	298,605
総会費	914,300	会議費	37,500
御祝金	70,000	印刷費	342,584
受取利息	1,455	通信費	296,725
		本部協力金	50,000
計	2,656,507	計	1,876,164
次期繰越金	780,343		

## (3) 平成10年度総会相当学年代表

- 本担当/昭和31年卒 丸川毅・沓沢昇  
菅野清子・大谷礼子
- 準担当/昭和45年卒 佐藤智和・中山和弘  
荘司信明・中田啓子
- 本年総会ゲスト/ 水野多門先生  
小林征二郎先生 (前校長)

## 〈事務局より〉

平成9年度総会は、140名余の参加人数でした。ゲストの菅間誠一先生の変わらない若々しさには一同本当に驚ろかされました。

8月22日に行なわれた学年幹事会の様子を御報

告いたします。昨年度より、本部同窓会の会計が逼迫のため全同窓生より会費を頂く事が決定されました。当支部としては、同じ同窓会の中での二重負担、また経費の重複等も考え、なんとか一本化できないか、との提案をいたしましたを受け入れられませんでした。当幹事会でも議題としましたが、反目する事は本意でないため様子をみながら一本化の道を探ろうという事になりました。

また、総会担当学年の件も議題となり、今までの無作為な選出方法では長期的には選出が困難になるおそれがあるため、事務局を増員し担当学年と共に運営しては、との意見もあり今後の検討課題としたいと思います。

学年幹事会は懇親の場でもあります。ナス漬・玉コンニャク・松茸御飯など懐かしい味に舌鼓を打ちながら、話の花が咲きました。会長が各テーブルを回られながら、親しく談笑される様子は会の一体感を醸し出し、前会長の矍鑠たるお姿は信頼感を、昭和4年卒の相談役桑島喜平さんの慈愛溢れるまなざしは世代を越える友愛を、「同窓会はいえーもんだ」と心から感じられた一日でした。

さて、本年の総会でも多くの皆様とその楽しさを味わいたいと念願しております。

## ◇編集後記と『お詫び』◇

昨年の会報を発行するにあたり、不手際により、鈴木先生・大場先生並びに常任幹事の土屋東一さんに変な御迷惑をおかけいたしました事深くお詫び申し上げます。

今後は十分な注意を払い編集進行にあたりたいと思います。申し訳ございませんでした。

また、昨年原稿を御執筆いただいた大場小十郎先生が本年六月御逝去されました。

心より御冥福をお祈りするとともに会員の皆様に御報告申し上げます。

昨年の長沼先生の彫塑館の御案内に続き、長井市の『古代の丘』を取材いたしました。いかがでしたでしょうか。

故郷も日一日と新しくなっているようです。